

教育後援会だより



『御挨拶』

滋賀県立守山養護学校
校長 安部 法子

秋の夜長、心地よい虫の声を聴いていたのも束の間、朝晩はぐっと気温が下がり、街路樹がどんどん色づき始めている今日この頃ですが、守山養護学校教育後援会会員の皆様におかれましては、お元気でお過ごしのことと存じます。平素は、本校教育活動の推進に格別の御理解と御協力をいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

守山養護学校教育後援会は、八幡養護学校守山分校で小児整形外科センター（現在の小児保健医療センター）に入院中の児童生徒が教育を受けていた当時の、在学あるいはかつて在学されていた児童生徒の保護者の皆様のお力添えで設立された、守山分校教育後援会を引き継いでいただき今日に至っています。設立当初より、他の学校と異なりPTA組織化が困難な本校の特別な事情を御賢察いただき、教育環境の整備のた

めに本校で学ぶ児童生徒たちを物心両面から支えていただきました。長きにわたり本校の教育に対してご支援いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

私この4月に、守山養護学校長2年目の就任となりました安部法子（あべ のりこ）と申します。ご挨拶が遅くなりましたが、よろしく願いいたします。

令和4年度の「教育後援会総会」につきましては、コロナ禍と言われ、3年目となっております『新型コロナウイルス感染症拡大』のため、中止とさせていただきましたが、昨年度の事業報告や会計報告、今年度の役員や事業計画等予算案については、書面にてご承認いただきました。職員を代表いたしまして御礼申し上げます。

さて、皆様もすでにご周知かと思いますが滋賀県立小児保健医療センター機能再構築に伴う新築移転はこの先何年後かに“延期”されることになりました。他の県立病院も合わせた3病院が、その経営形態を見直されるということです。このこと自体が本校の学校運営に直接的に影響を及ぼすということではありませんが、コロナ禍3年目とも相まって、本校の転出入に係る病院の

第49号 令和4年11月発行

滋賀県守山市守山五丁目6番20号

守山養護学校教育後援会

TEL (077) 583-5857

FAX (077) 583-7543

本校ホームページ

<http://www.moriyama-sh.shiga-ec.ed.jp/>

本校メールアドレス

moriyama-sh@pref-shiga.ed.jp

入退院の状況が少しこれまでとは異なってきたという事は否めません。

しかし、だからこそ今『入院しても学べる学校』『病気と向き合いながら学ぶ』ことの意義や病弱特別支援学校の果たす役割、そのあり方等を本校教職員が共通認識し、今後の「守山養護学校」の“将来”を考えていく時期に来ているのだと感じています。それはある種“危機感”に近いものではないかとさえ感じられます。

一方、大津赤十字病院内にあります大津分教室におきましては、コロナ禍における病院の事情により、教室が2階から4階の小児病棟内に移り、2年が経ちました。こちらの小児の入院状況も、コロナ禍の影響がないとは言えないようです。「面会禁止」措置は、今なお徹底されております。そのような状況下において、分教室の教員も細心の注意を払い、工夫を凝らした教育活動を進めているところです。

そこで、これらのようなコロナ禍における病院事情の中、年間の累積在籍児童生徒の減少傾向にある今後の守山養護学校の“将来”そして病弱特別支援学校の“センター的機能の更なる充実”として私達は以下のようなことを早急に検討し、準備に取り掛かなければならない時期に来ていると考えています。

まずは『高校生および高等部生支援』『巡回相談等のあり方』、そして私達教員の『病弱教育に資する専門性の向上』等です。

特に、『高校生および高等部生支援』に係わっては、ICTを活用した高等学校の「遠隔教育」を進めていくことや、特別支援学校の高等部生に対して、センター的機能として発揮できる具体的な支援内容を考えていくこと等です。これらについては、今年度校内組織である「将来構想検討委員会」を

中心に、病院と連携し、県教育委員会にも相談しながら丁寧にかつ迅速に取り組んでいく必要があると考えています。

大津養護学校から始まり、病弱の特別支援学校『守山養護学校』として蓄えてきたこれまでの実践や実績を更に太い幹にして、既存のものだけでなく、新たな枝葉を増やしていかなければならない時期に来ています。

病気と向き合い、入院しながら学習する子どもたちに、最良の教育支援を保障し、守山養護学校の病弱教育の充実、発展を目指し、職員一同一丸となって日々取り組んでいく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたしますとともに会員の皆様の御健勝を念じまして、御挨拶とさせていただきます。

学校生活の様子

文化祭

10月6日(木)～7日(金)の2日間、守山養護学校文化祭を実施しました。

感染症拡大防止の課題はまだ続いています。『入院中の子どもたちのための文化祭』として大事なことを再整理し、工夫をした上でできることから少しずつ。」という思いで計画を進めました。昨年度からの主な変更点は、次の3点です。

(1) 病院と連携を取り、保護者の方に参観していただけるようにしました。

参観場所や、時間の制限、クリアボード越しの参観など、様々な感染症対策を講じながら、たくさんの保護者の方にご来校いただくことができました。子どもたちの中には、「発表の前、とても緊張したが、お母さんが来てくださっているのを見てからは緊

張がなくなった。」というように、参観していただいたことを励みにし、自分の力を十分発揮して頑張ってくれた子ども達の姿がありました。

(2) 文化祭の日程を3年ぶりに1日日程から、2日日程に戻しました。

2日間にすることで、プログラムに余裕ができ、各児童生徒の発表が、事故防止や感染対策に配慮しながら、より安心安全に進めることができました。また、交流校(市内の小中学校、県内の病院内学級、大津分教室)から届いた展示作品をゆっくり鑑賞し、感想を書くという、より意義のある交流学习もできました。

(3) 3年ぶりに、『職員発表』を復活させました。子どもたちの頑張りに負けじと、「教員も頑張っているところを子どもたちに見てほしい。」とそんな思いで、歌や踊りの練習をして当日を迎えました。

このように、子どもたちの努力に合わせ、保護者の皆様、教育後援会会員の皆様から色々な励ましや、ご協力をいただいたおかげで、無事、文化祭を終えることができました。ありがとうございました。

この後は、文化祭の2日間の子どもの姿を振り返ってみたいと思います。

文化祭は、1日目(10月6日)の開会式からスタートしました。今年は、放送委員会の中学生が司会進行をし、情報委員会の中学生が『文化祭スローガン』と『文化祭テーマソング』の発表と、文化祭を盛り上げるための掲示物の準備等に取り組んでくれました。

『文化祭スローガン』は、㊦㊧㊨㊩(守山養護の愛称)の“あいうえお作文”に、入院中の子どもたちの思いを込めてくれました。

『文化祭テーマソング』は、みんなが知っている曲で、聞くだけで元気になれるものということで『アンパンマンマーチ』を選び、

この間『SDGs』の学習を進めてきた中学生の意見も取り入れ、スローガンにもからめ『We are the world』も、BGMとして流すことにしました。



【情報委員会作製の『文化祭へのカウントダウンの花』と児童作製のポスター】

午後は、芸術体験活動で『土面づくり』をしました。講師として『滋賀次世代文化芸術センター』から村井様、『滋賀県立陶芸の森』から陶芸家の灘様を迎え、指導を受けながら、400万年前の古琵琶湖層といわれる信楽の粘土をこね、自分だけの素敵な土面を完成させることができました。1カ月後の焼き上がりが楽しみです。なお、芸術体験活動の様子が分かる写真や、子どもたちが作った土面の写真は、本校のHPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

2日目(10月7日)は、チャレンジグループの発表からのスタートでした。小学部2年生の児童が、国語科で学習した、アーノルド・ローベル作の『お手紙』という心温まる話をもとに、朗読劇を発表しました。

児童は、主人公の『がまがえるくん』の声優(朗読)と、『かたつむりくん』の演技の2役を堂々となしての大活躍でした。



【チャレンジグループの発表の様子】

次のパワータイムグループの発表は、長谷川摂子作の『めっきら もっきら どおんどん』の劇でした。仲間と一緒にひもを引っ張り、泣いている登場人物を笑顔にする活動、また、『パラバルーン』で空を飛んだり、楽器演奏をしたりすることを楽しみながら、自分のもつ力を発揮していました。院内で学習している生徒もこの時間は登校でき、大変良かったです。パラバルーンや、暗くなった会場で『水晶玉』が光る演出の時には、笑顔と笑い声がいっぱい、会場のみんなが楽しい気持ちになりました。



【パワータイムグループの発表の様子】

各自教室で給食を食べた後は、作品鑑賞（本校児童生徒の作品、交流校の作品、本校職員の作品の4会場）をしました。どの作品にも作者の思いがたくさん詰まっていました。本校の子どもたちや、職員一人ひとりが書いた感想は、ひとまとめにして交流校へ届ける予定です。



【本校児童生徒の作品展示】

午後の最初のプログラムはスマイルグループの発表でした。『あなたはどんな未来を描きますか～SDGs の描く未来～』という題で、中学生の仲間が、SDGs について学習した成果を発表しました。自分が興味のあることについて詳しく調べまとめあげたものを、一人ずつ堂々と発表していました。校長

先生からは、「目標達成のために、『今自分なら何ができるか。』、ということまで考え、発表出来ていたことが素晴らしかった。」と褒めていただきました。



【スマイルグループ発表の様子】

プログラムの最後は、『おきなわ～さとうきび畑～』という演題での職員発表でした。寺島尚彦作の『さとうきび畑』という歌と、葉祥明作の絵と詩を中心に、平和への願いを発表に込めました。踊り（エイサー）、三線の演奏、歌、朗読による発表は、演者にとっては、子どもたち以上にドキドキの連続でしたが、子どもたちからたくさんの応援や拍手をもらうことができ、職員一同うれしい気持ちでいっぱいになりました。

閉会式では、司会の中学生から「今日の文化祭は楽しめましたか！」との呼びかけに、どの子もみんな満足そうな笑顔や拍手で応えていました。このように、それぞれが工夫と努力をしながら、日々の学習成果を発表したり、新たなものを創り出したりするなど、達成感が感じられた2日間でした。

～編集後記～

会員の皆様の御支援、御協力のおかげで第49号を発行することができましたことを、厚くお礼申し上げます。ここ数年、本校へ転入してくる子どもたちの数が減少の傾向にあり、伴って会員数も減少しています。

会員の皆様には、ぜひ継続して御加入いただき、教育活動の充実のために御支援御協力をよろしくお願いいたします。